

にいがた元気+

関節リウマチに「T2T実践」

医師と患者 目標決めて最適治療

関節リウマチの患者が目標達成に向けた治療(T2T)を行えるように、治療の知識や医師とのコミュニケーション方法などをまとめた学習冊子「T2T実践ガイド」が完成した。県立リウマチセンター(新発田市)副院長の伊藤聡医師(62)や県内の患者らが監修。T2Tは治療効果や患者の満足度が高いとされ、普及促進が期待される。

県内関係者監修 学習冊子が完成

関節リウマチは関節に炎症が起こって痛みや腫れが現れ、進行すると関節が変形し日常生活に支障が出る。100人に1人が発症するといわれるが、近年は薬の進歩で症状が治まる「寛解」を達成、維持しやすくなった。T2Tは医師と患者が目標を決めて最適な治療をするという考え方で、約10年前に国際的に提唱された。実践すると、患者は病状を理解した上で前向きに治療に取り組めるという。伊藤医師は「薬剤という武器が増え、寛解を達成しやすくなった今こそT2Tが重要だ。痛みなど自覚症状も含めた指標を使うことで、治療の満足度が高く、結果として治療成績も上がる」と普及の必要性を訴える。伊藤医師によると、T2Tで用いる病気の勢い(疾病活動性)を測る指標は計算が複雑で、患者への説明にも時間がかかるため、現場では浸透しづらかったという。

冊子を作ったのは、製薬会社のアウイイ合同会社(東京)。昨年6月、本県で伊藤医師や患者らによるワークショップを開き、その意見を基に必要な情報を盛り込んだ。関節リウマチの症状や診察方法のほか、治療目標に合わせた指標、目標設定などについて図表と共に解説。「医師に何を伝えたらいいか分からない」という患者の声を聞き、医師に伝える事例も取めた。伊藤医師は「患者が自分の現在地や寛解を理解して医師と共有し、前向きに治療する手助けになれば」と期待している。A5判フルカラーで18ページ。リウマチ専門医がいる全国の医療機関に順次配布している。



「T2T実践ガイド」と、監修した伊藤聡医師＝新発田市の県立リウマチセンター



連載「つなぐ命」書籍に

県産婦人科医会と県小児科医会が、本紙朝刊で9年間連載した医療コラム「つなぐ命」産婦人科・小児科医師からのメッセージを書籍にまとめた『つなぐ命』を産婦人科医と小児科医が「生命の誕生と育み」

産婦人科医と小児科医執筆 本紙で9年、全108回収録

に関する話題を毎月寄稿。不妊治療や産前産後のトラブル、子どもの病気など幅広いテーマについて、県内で活躍する医師らが現場の思いとともに解説している。B5判カラー(一部モノクロ)で115ページ。600部作製。関係者に配るほか、新潟大付属図書館などに置く予定。一般販売はしない。

言葉の発達が遅いのでは

なかなか言葉で悩むことは、て、始 A Q 身ぶり Q があり しが 言 極的 かけ